

## 答 辞

膨らみ始めた桜のつぼみが春の訪れを感じさせる今日のこの佳き日に、私たち十六名は卒業の時を迎えました。

思い起こせば、三年前、真新しい制服に身を包んだ私たちは、震災後初めて、小高にあるこの本校舎で入学式を行うことができました。これから始まる新しい生活に少しの緊張を覚えつつも、故郷<sup>ふるさと</sup>で入学式を行えることや、新しい出会いに胸を躍らせていたことが、昨日のこのように思い出されます。中学校の勉強への不安も、毎日興味深い授業を受けているうちに、いつの間にか消えていました。

部活動では、それぞれが力を伸ばし、練習に励みました。大会では、一人ひとりが力を発揮し、納得のいく結果を残すことが出来たと思います。さらに、部活動は、「先輩とはどうあるべきか」ということを考える良い機会になりました。一年生の頃は基礎から教えていただくばかりでしたが、二年生では先輩を支え、三年生では部をまとめる役割を担って、後輩の手本となるよう心がけました。どんな練習がいいのか、どんな言葉で伝えればいいのか。時に意見がぶつかることもありましたが、切磋琢磨しあえる仲間がいたからこそ乗り越

えることができたのだと思います。

三年間でたくさんの思い出ができましたが、特に心に残っているのは群青祭です。私たち三年生にとって最後となった今年度の群青祭は、生徒一人ひとりの個性を生かしたいという思いを込めて、「私の color みんなの color 一つになれば群青 color」というスローガンに決めました。準備期間には、台風や大雨などの災害にも見舞われましたが、なんとか無事に当日を迎えることができました。そして、本番では、各係・各学年が、今までの成果を発揮し、全力を出し切ることができました。

三年生全員で披露した「パプリカ」は、日々時間を見つけて練習したことはもちろん、鈴木先生、秋元先生、畠山先生と一緒に踊れたことが何よりいい思い出です。

合唱の発表では、どの学年も美しいハーモニーを奏でました。中でも、生徒全員で心を込めて歌った「群青」は、私たちの小高中への思いを乗せて、この群青の町に響かせることが出来たと感じています。

このように、思い出深く、充実した学校生活を送ることができたのは、私たちを支えてくださった方々のおかげです。

先生方。授業の時、私たち三年生はよく「静かだね」と言われてきました。発言や反応が少なく、先生方を困らせてし

まったこともあるかもしれませんが、そんな私たちですが、先ほどの呼名の返事では、私たちなりに、成長を表そうと頑張りました。いかがだったでしょうか。時に優しく、時に厳しく、勉強から生活に関わる様々な面でたくさんの教えをいただきました。私たちを今日まで導いてくださった先生方、とても感謝しています。ありがとうございました。

お父さん、お母さん、十五年間ありがとうございました。いつも私たちのことを第一に考えてくれました。震災のとき、私が「小高に帰りたい。」と言ったときも、入学手続きを済ませた別の小学校への登校を拒んだときも、否定せずに話を聞いてくれましたね。故郷に戻ることができて、私はとてもうれしいです。これから私たちは自分で選んだ道を進んでいきます。たくさん心配をかけることもあると思いますが、これからもよろしくお願いします。

そして、十六名の仲間たちへ。三年間の中学校生活を楽しく過ごせたのはみんなのおかげです。幼い頃から一緒だったので、言葉はなくても心はどこかで通じ合っていたと思います。最後ぐらいにぎやかにできたらいいなと思いましたが、やはり、私たちは静かでしたね。しかし、この絆はかけがえのないものです。本当にありがとうございました。

今日から私たちは、それぞれ別々の道へと歩いていきます。

このような形での卒業式になってしまったことは残念ではありますが、前に進んでいかなければなりません。この地で出会えたこと、当たり前前の大切さ、たくさんの方々からいただいたものを忘れず、これからも夢の実現のために励んでいくことをお誓い申し上げ、答辞といたします。

今まで本当にありがとうございました。また会いましょう。群青の町で。

令和2年3月13日

卒業生代表